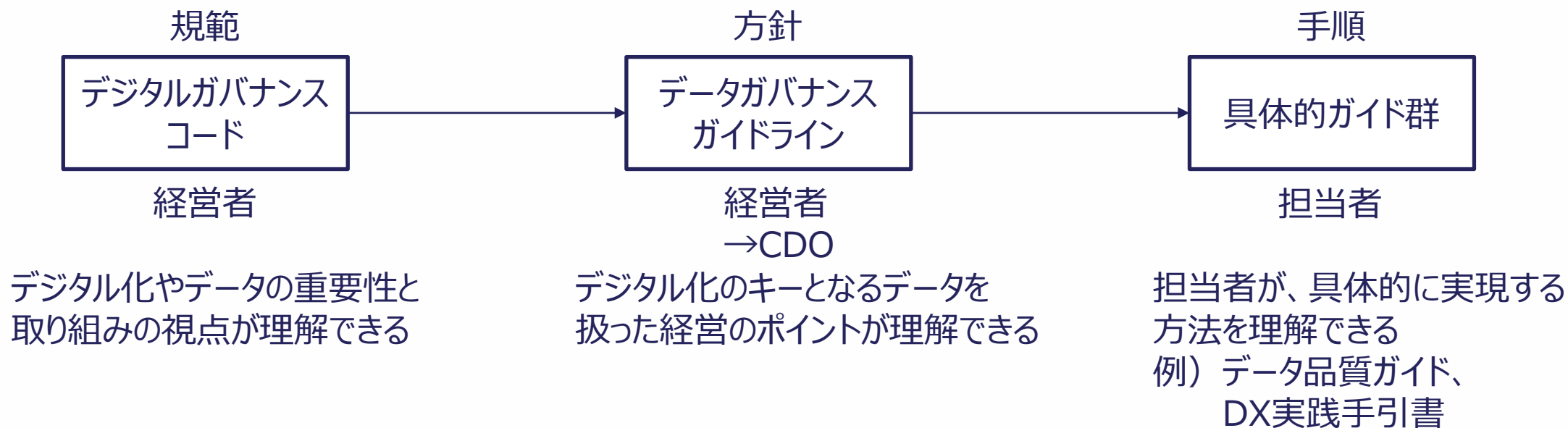


# データガバナンス・ガイドラインの整備について

- ◆ 経済産業省が、デジタルガバナンスコードを改定中。
- ◆ デジタル庁が、国際データガバナンス・ガイドラインを策定中。
- ◆ 企業にとっては、コードを具体化するガイドとして国際データガバナンス・ガイドラインを活用可能。さらに担当者に具体的ガイドなどを指示できる。
- ◆ 本書は、国際データガバナンス・ガイドラインの基盤となるデータガバナンスの方法論をまとめたものである。



# データガバナンス・ガイドラインの構成

経営層が読む概要編と、CDOが読む報告書により構成される。

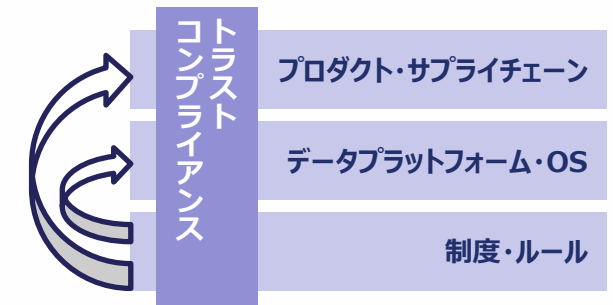
1章	はじめに	本ガイドラインの全体構成、活用方法が把握できる
2章	データガバナンスが 必要な社会環境	グローバルなデータ社会で、企業が置かれている現在の状況、将来に向けた取り組みの必要性のポイントが把握できる
3章	データに関する ルールとコンプライアンス	国際サプライチェーンまで含んだルールに関する動向、配慮しなければならないこと、そのコンプライアンスの在り方と対処方針について把握できる。
4章	データの価値を生み出す 組織の総合力	人もの金と並ぶ組織の重要資産であるデータを、組織の総合力として管理する重要性とその対処方針を把握できる
5章	持続的な品質良い データの供給	組織活動で安定的にデータが活用できるようにするためのデータの獲得、設計、管理するための対処方針を把握できる
6章	自在にデータを扱える 仕組み	自組織のデータ、外部のデータを取り込み安全に活用するための基盤整備の在り方や実現方法を把握できる
7章	データガバナンスを実現する 人材	データガバナンスを実現するためのスキルやその位置づけ、成長モデルの在り方や成長モデルを把握できる

## 2章 データガバナンスが必要な社会環境

データが社会活動全体の基盤になっており、それに対応できない企業は生き残れない

- ◆ 企業や組織をまたいだデータ流通やAI活用等が拡大
  - グローバルな観点でのガバナンスが必要
- ◆ データ経営ができていない日本の状況
  - 経営層の理解不足、体系的なデータ戦略の不足
  - 面的な法規制ルール不足
  - IDやトラスト基盤の不足
  - データスペース実現のための体系、ビルディングブロックの定義とツール実装の不足
  - データ戦略を考える人材の不足
- ◆ CDO等グローバル情勢の分かったリーダーシップが必要
- ◆ 組織のスピードやアジリティを実現する戦略的な取り組みが必要

### データガバナンス実現スタック



進化・変化するデータ流通やAI活用に関する法規則・ルールを遵守するためのコンプライアンスやトラストが必要。さらにそれらを用いてプラットフォームを実現し、サプライチェーンをまたいだデータ連携におけるデータガバナンスを実現する。組織的なデータ活用力（データマチュリティ）向上が肝要。

# 3章 データに関するルールとコンプライアンス

デジタル社会は、技術に注目があつまるが、グローバル化や産業横断が広がる中で、ルールによる支配が重要になってきている。

- ◆ 取引等の事業上の判断をするために、どのような法やルールがあるのか継続的に知る必要がある
  - 国内ルール
  - 海外ルール
- ◆ ルールを知っているだけでなく、コンプライアンスができているのかが重要。
  - 国により個別対応が必要な場合もある
- ◆ 法令工学の活用など、今後はルールの可視化、検索性の向上などが必要になってくる。
- ◆ 多様なデータを活用するため不特定多数の相手との信頼性の確認が必要になる



# 4章 データの価値を生み出す組織の総合力

データを重要資産と認識し、人、モノ、金のように管理していくことが重要。基盤整備、人材育成などの個々の取り組みではなく総合力で考える。

- ◆ データのプロダクト化
  - 同じものが品質よく繰り返し作れる。取得できる。管理できる。
- ◆ データマチュリティの向上
  - データは組織を横断して活用できることを認識し、適所適材、適切な方法で管理する。
  - データを基にした新サービスの開発等、データの価値を引き出せる組織横断の仕組みを作る。
  - データ活用や新サービスの開発を支えるDXを推進する。

# 5章 持続的な品質良いデータの供給

事業を運営、改善するためのデータを安定的に供給するとともに、新規アイデアをすぐに検証し実現できる多様な素材の供給を実現する。

- ◆ データマネジメント
  - データの発掘から廃棄までライフサイクルを通じた管理をする
  - 国際サプライチェーンを通じたデータの管理が重要
  - モデリングしながら可視化。さらにシミュレーションを用いた予測を行う。
- ◆ データ量の供給
  - 自社のデータはもちろんのこと外部データを入手することも考える。
- ◆ データ品質の確保
  - 正しい経営判断のため品質管理。正確性、完全性、一貫性等。

## 6章 自在にデータを扱える仕組み

組織やサービスは簡単に外部連携でき、ライトパーソンが、データを自由自在に使え、その人の能力を最大限発揮できる環境を整備する。

- ◆ コンプライアンスやフレームワークの見直し
- ◆ データのライフサイクルに基づく仕組みを導入
- ◆ ID、PETs等、トラスト基盤の活用
- ◆ トラスト基盤を基礎としたデータ流通の実現（ビルディングブロック）
- ◆ Edgeデータを活用するためのEdge-クラウドの強化とデジタルツインの実現
- ◆ ランサムウェアなどセキュリティへの対応、個人情報保護の保護
- ◆ 組織外と連携・取引するためのデータスペースの活用



# 7章 データガバナンスを実現する人材

人をひきつけ、能力を活かし、成長できる環境を実現する。組織にとっては必要な時に必要なチームが組成できる人材マネジメントを実現する。

- ◆ CDOの定義
- ◆ スキル定義、スキルベース・マネジメントによる流動性の向上
- ◆ デジタル・スキル・スタンダードと評価の仕組み
- ◆ 国内外の教材や事例集の活用

IPA